

## 平成 28 年度 研究開発評価シンポジウムについて（案）

### ◆シンポジウム名

平成 28 年度研究開発評価シンポジウム  
～大綱的指針の改定を踏まえた新しい研究開発評価へ向けて～

### 1. 趣旨・目的

研究開発は、社会的・経済的な要請や国民への成果還元のため、より効果的で効率的な推進が求められている。そのため、研究開発評価についても一層実効性の高いシステムへ向けた改革が必要とされている。

我が国の研究開発評価は、「国の研究開発評価に関する大綱的指針（以下、「大綱的指針）」に基づき、各府省等がより具体的な指針を策定し、評価を進めているところである。今般、平成 28 年 12 月に、第 5 期科学技術基本計画（平成 28 年 1 月策定）を踏まえて大綱的指針の改定が行われ、「研究開発プログラム評価」の更なる推進や新たな視点に基づく研究開発評価の促進等について、記載の充実が図られた。

文部科学省としては、大綱的指針及び「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」を踏まえ、研究開発の特性に応じた適切な評価が効果的・効率的に行われるよう研究開発評価活動の質を一層高めていきたいと考えており、これまで大学や独立行政法人等の多くの研究開発機関との研究開発評価活動に関する意見交換や委託調査等を実施し、その結果を様々な場面で情報発信するとともに、課題解決に向けた支援事業を推進している。

このような経緯や趣旨を踏まえ、研究開発機関における研究開発評価の効率化及び充実を促進し、評価関係者の意識の向上や関係者間の連携促進を目的として、研究開発評価シンポジウムを企画・開催する。

### 2. 対象者

主に、国、資金配分機関、大学及び独立行政法人等の研究開発機関（以下、国及び研究開発機関という）における評価者、評価人材、研究マネジメント担当者等を対象とする。

- (1) 評価者：研究開発施策や研究開発課題を評価する者
- (2) 評価人材、研究マネジメント担当者：国及び研究開発機関において、評価体制並びに評価方法等を企画・立案し、評価システムを運営する評価事務局職員、プログラムオフィサー等

### 3. テーマ

～大綱的指針の改定を踏まえた新しい研究開発評価へ向けて～

#### ◆第 I 部 「「国の研究開発評価に関する大綱的指針」を踏まえた研究開発評価の推進について」

平成 28 年 12 月に、第 5 期科学技術基本計画を踏まえて大綱的指針の改定が行われ、研究開発プログラム評価のさらなる推進や、アイデアの斬新さと経済・社会インパクトを重視した研究開発の促進に向けた評価の在り方など、より実効性のある研究開発評価の推進に向けた諸方策が示された。第 I 部では、第 5 期科学技術基本計画の内容も踏まえ、大綱的指針の改定内容を解説する。また、大綱的指針に関する理解を一層深め、実効性の高い研究開発評価を実施していくための具体的な事例を紹介する。

#### ◆第 II 部 「挑戦的（チャレンジング）な研究開発を促進するための新しい研究開発評価の在り方について」

て」

第Ⅱ部では、大綱的指針の改定内容も踏まえ、挑戦的（チャレンジング）な研究開発を促進するための新しい研究開発評価の在り方について、シナリオプランニングやマネジメント、人材育成等にも着目しながら、優良事例等の紹介を交えつつパネル・ディスカッションを行う。

#### 4. 開催日等

開催日 平成 29 年 3 月 22 日（水） 14 時 00 分～16 時 55 分（2 時間 55 分）

会 場 全日通震が関ビルディング 8 階 大会議室 A

定 員 120 名程度

5. プログラム (案) ※講演題目・登壇者は一部暫定

開会	
13:00 (P)	開場
14:00	開会
14:00～14:05	主催者挨拶 文部科学省 (P)
第Ⅰ部 (講演) 「国の研究開発評価に関する大綱的指針」を踏まえた研究開発評価の推進について	
14:05～14:20 (15分)	1. 「国の研究開発評価に関する大綱的指針」の改定について (内閣府政策統括官 (科学技術・イノベーション担当) 付参事官 (評価担当) 付企画官 上谷 昌史)
14:20～14:35 (15分)	2. 文部科学省における研究開発評価に関する取組・事例の紹介 (文部科学省 科学技術・学術戦略官 (制度改革・調査担当) 橋爪 淳)
14:35～14:50 (15分)	3. 事例紹介①～挑戦的な研究開発の評価、機関におけるプログラム化、マネジメント等～ (科学技術振興機構環境エネルギー研究開発推進部部长 古賀 明嗣)
14:50～15:05 (15分)	4. 事例紹介②～ (未定) ～ ※理研版白眉プロジェクトによる若手人材の育成 (理化学研究所) 【P】
15:05～15:20 (15分)	5. 事例紹介③～挑戦的な研究開発促進のための評価、マネジメント～ ※ImPACTにおける取組紹介 (ImPACT・プログラム実施者) 【P】
15:20～15:35 (15分)	6. 事例紹介④～研究開発評価に関する国際動向や国際的な視点～ (成城大学社会イノベーション学部教授 伊地知 寛博)
15:35～15:50 休憩 (15分間)	
第Ⅱ部 (パネル・ディスカッション) 「挑戦的 (チャレンジング) な研究開発を促進するための新しい研究開発評価の在り方について」	
15:50～16:50 (60分)	6. パネル・ディスカッション～挑戦的 (チャレンジング) な研究開発を促進するための新しい研究開発評価の在り方について～ モデレーター: 伊地知 寛博 (成城大学社会イノベーション学部教授) パネリスト: 栗本 英和 (名古屋大学教授、評価企画室副室長・教養教育院副院長) 林 隆之 (大学改革支援・学位授与機構研究開発部教授) 古賀 明嗣 (科学技術振興機構環境エネルギー研究開発推進部部长) (理化学研究所) 【P】 (ImPACT・プログラム実施者) 【P】
閉会	
16:50～16:55	閉会挨拶 (P)